

教宣 せぶん

350万枚 達成の影で

12月13日の「手渡し&ポスティングビラ」一斉行動で、私たちは350万枚突破を目標に掲げ、達成することができました。これはひとえに仲間の絶大なご協力・ご支援によるものですが、この目標を達成した影に、組合員の奮闘と、このたたかいにかける執念もありました。

「お父さんを見なおした」。当日、ポスティングに参加してくれた二十歳になる組合員の娘さんは、報告決起集会の席で、父に対する感動の言葉を何度も口にされたそうです。この日の行動を指揮し、下準備のために奔走し、「350万突破」「練馬区制覇」に執念を燃やした父親の姿を目の当たりにし、そして仲間からその努力を大いに称えられた父親の姿は、きっと普段家庭で見る父親とは別人に映ったのかもしれない。「雇用」をかけるこのたたかいを通して、家族の生活や自らのプライドを守ろうとする姿は、娘さんから見てもきっと輝いていたことでしょう。

「神様、あと3日お願いします」。重篤の父親をかかえた彼のブログには切実な願いが書かれていました。願いは通じず、一斉行動の前日、お父さんは永眠されました。しかし、そんな事情を抱えていたにもかかわらず、行動の責任者として、翌日に仙台に向かい、行動を指揮した彼の責任感には本当に頭が下がりました。このたたかいにかける、彼の並々ならぬ「執念」を見ました。

再建大会から数えて5度目の冬を迎えています。都労委に続いて中労委でも組合分裂に会社の不当労働行為意思があったことが暴かれましたが、いまだ会社は謝罪の言葉を口にしていません。裁判所から「制度廃止は違法・無効」と断じられても、いまだ会社は制度廃止に固執しています。

たたかいが長期化すればするほど、色々なことが起きてきます。不測の事態や、家庭の事情・個別の事情もでてきます。それらを乗り越えて、私たちはいまたたかっているわけですが、そうしたこのたたかいにかける執念やひたむき

さが、仲間がこのたたかいに力を貸してくれる、支援してくれる原動力やきっかけになっているのかもしれない。

そして、たたかいが長期化すればするほど、私たちの性根もすわってきます。13日に見せた当事者である私たちの「執念」や「責任感」は、会社の不当な攻撃、不誠実な態度がつくりあげたものに他なりません。

「350万枚」を積み上げて、私たちの性根はさらにすわりました。私たちが一生懸命に汗を流せば、支援の輪はさらに広がります。徹底的に世論に訴えて、このたたかいを必ず勝利・解決させましょう。その日まで、まじめに、ひたむきに、目の前のやるべきことを完遂させていきましょう。